

Daichikyo News 大地協ニュース

大地協ニュース復刊 第4号

「地域福祉研究会」の復活!!かも!?

発行元：NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会

企画委員会《広報宣伝部》

発行日：2019 年 9 月 第 4 号

担当窓口：望之門保育園 佐伯 剛

TEL 6651-7741

Fax 6652-8841

大地協の最新☆情報は右記→

QR コードをご覧ください。



第 62 回大都市社会福祉施設協議会のご報告

2019 年 7 月 25 日～26 日に札幌市京王プラザホテルにおいて「大都市の社会福祉施設が目指す未来」をテーマに 12 政令指定都市 214 名が参加して開催され、経営・高齢・児童・保育・障がい・生活福祉の 6 研究会で活発な議論が交わされました。また研究会に先立ち、各都市の代表者が集まり、運営についての協議が行われました。席上 20 年前に開催されていた「地域福祉研究会」の復活を大阪市（大地協）から提案いたしました。放課後児童クラブ（学童保育）

の問題や、近年マスコミでも大きく取り上げられている、こどもの貧困問題等についての議論の機会が必要とアピールしました結果、各都市からの賛同を得ることができ、前向きに協議検討を続けていただくことになりました。来年度は川崎市で開催が予定されています。各都市からは、かなり突っ込んだ意見交換や、開催都市の行政担当者の出席もあり、盛り上がりのある協議会です。ぜひ皆さんもご参加いただければと思います。今回の協議会の詳細については、年末に報告書が届きます。大地協事務局に保管しますのでご覧ください。

夏のキャンプ★セツルの家 思い出のアルバム

『わかくさ保育園ほのぼのエピソード』

初めて参加した1年生の男の子。年長時のキャンプでは、水に顔をつけることを怖がり、泳ぐこともできなかった。しかし、このキャンプでは浅瀬で一人顔をつけ、最終日には泳いで水中で、でんぐり返しをしていた。職員全員でその子の成長を喜び合った。

『こどもたちの声』

初めて参加した高校生1年生の男の子がキャンプから帰って来た時に

「また来年も絶対に行く！」「友だちにも、楽しかったから来年は絶対来いって誘う！」と話してくれた。

『わかくさ保育園★最高の写真』

『びわこでたくさんあそんだ後、晩御飯までの少しの時間、自然と水際に集まり、石投げや魚を探し、そして会話をして…何をするわけでもなかったが、自然の中でゆっくりと時間が流れ日常では味わうことのできない空間を一人ひとりが楽しんでいた』



《わかくさ保育園》 入道 雅美

『今川学園ほのぼのエピソード』

今年初めてOBとして参加した中学生達。夏休みに入り自主的に遊びに来てくれ一年生達と繋がりを持つとコミュニケーションを積極的に行っていました。その甲斐あってキャンプ中も1年生たちがOBに遊んでもらおうと甘える姿が見られ丁寧に優しく関わるOB達。食事のたびに「どれくらい食べれる？」と一人ずつに聞いてくれていました。湖水浴中にはOB達が大きな浮き輪を浮かせると、1年生たちが自然と集まり、ま

るで、親鴨の後ろに子鴨が連なって湖水浴を楽しんでいるような、みんなの笑顔が素敵でした。

『こどもたちの声』

「飛び込み台が変わっていてビックリした」「魚を101匹も見つけた」「初めての流しそうめん面白かった！」「グミが流れてきたのにはビックリ！でも美味しかったよ！」「たくさん布団が並んで、みんなで寝れて楽しかった！でも、寝相の悪い子にびっくりした！」

『今川学園★最高の写真』

『やった！大きなスイカが割れたよ！』



《今川学園子どもの家》 篠瀬 実千代

『阿さひ保育園つくし会

ほのぼのエピソード』

阿さひ保育園つくし会のキャンプは中高生や社会人OB・OGの他に現役学童の保護者にも手伝いを呼びかけています。その中でも姉が現役の時から来てくださるお母さんは今年で約10年目。妹も6年生になりお手伝いは今年でラスト。姉もOGとして来てくれていて、お母さんの跡を継ぐと張り切ってくれています。キャンプファイヤーは昔から引き継がれるプロ

『阿さひ保育園つくし会★最高の写真』

『今年も仲間と一緒にBBQ！』



グラムがあり、中高生が先輩から教えてもらい今後も新しい事、今までの事も大事にしていきたいです。

『こどもたちの声』

「飛び込み台が高くて面白かった」「台風のあとだったからかゴミ拾い大変だった」「夜のきもだめしには二度と行きたくない」「来年はもっと飛び込む！」

《阿さひ保育園つくし会》 吉野 裕志

『安立保育園ほのぼのエピソード』

セツルの家一泊保育は大冒険！

友だちや保育者と過ごした2日間は初体験の連続で、はじけんばかりの子どもたちの笑顔ばかりでした。「また行きたいわ」「たのしかったなあ」と、帰ってきてから描いた絵には子どもたちの気持ちがあふれていました。

できたてのとうもろこしを「あつい、あつい」と言いながら食べているお友だちに「あついからおいしいねん」と

『安立保育園★最高の写真』

『できたてのとうもろこしは

あつつあつておいしいよ！』



A君が一言。和んだ雰囲気になりました。スイカ割りをして、スイカを食べ、種を湖に飛ばしていた時、引き波で種が波打ち際を離れると「海の中にスイカできるんちゃう？」と真剣な眼差しに可愛いなとほのぼのしました。

『こどもたちの声』

「流しそうめん速かったな！」「トマトも流れてきた」「また琵琶湖にはいりたいわ」「帰りたくない！」

《安立保育園》 東(ひがし) 昭江



『鮭の解体を見て、大切な命を頂く』 天使保育園



秋が旬の鮭1匹を、魚屋さんが子どもたちの前で「自分より小さい魚を食べてどんどん大きくなっていくんだよ」「エラがあるから海から出ると生きられないんだよ」など、分かりやすくお話ししながら解体をして頂きます。子どもたちからは「血がいっぱい・・・」「かわいそう」という声も聞こえてきました。「お魚も生きててん。だから大切に食べてあげてな」と、大切な命を頂いて自分たちが大きくなっていることを学びます。解体の後に、その鮭を調理し給食で食べます。大切な命を頂くことを学んだ後に子ども達は、それぞれの想いで、おいしく食べました。実際に目の前で解体を見て、いつも目にする魚の形になっていき、命の大切さを学び、食への意識が上がり、食欲にも繋がっていく大切な食育を行っています。

旬の鮭を使った、子ども達に人気の『鮭のちゃんちゃん焼き』。苦手意識が高い魚も、天使保育園の子ども達はよく食べます。魚と一緒に野菜もしっかり摂ることが出来るのでおすすめです。



《天使保育園》 関野 紗織



『秋の味覚！さんまを使ったメニュー』 望之門保育園



「お魚苦手！」という声も、園庭で七輪を使って炭火で焼くと「今日のさんま食べたら美味しかった！」と毎年伝えてくれる子ども達！！9月後半から11月前半までさんま料理がたくさん登場します。

昼食では園の定番メニュー「さんまのかば焼き丼」や「さんまのひつまぶし風丼」「さんまの塩焼き」など…夕食では「さんまの甘露煮」です。



特に人気は丼メニューです。昼食の丼メニューは食べやすさもありとても人気です。こちらの丼は野菜が入っていないので、秋の味覚きのこや野菜をたくさん入れた具たくさん汁で野菜不足がないようにしています。

《望之門保育園》 濱地 亜由美



『あんかけそばで、心も体もぽっかぽか！』 大阪聖和保育園



大阪聖和保育園で人気のあんかけそばのレシピをご紹介します！なんと言っても野菜たっぷり具たくさんで食べ応えがしっかりあることです。もう一つ

はコンソメ味のあんかけと野菜を絡めることによって子どもたちも嫌がらずにしっかり野菜を食べることができます。さらにショウガやネギといった体を温める作用のある野菜も使用しているので寒くなるこの時期にぴったりのメニューです。ぜひ作ってみてください(^o^)

秘伝!!

RECIPE!



【材料・大人4人分】 中華麺 4玉・豚肉 200g・ピーマン1袋・水煮タケノコ 1/2個・冷凍焼きちくわ 1本
キャベツ 1/4玉・にんじん 1/2本
もやし 100g・干椎茸(乾) 20g・ショウガ 1片・ネギ 1/2束・コンソメ 3個
水 750cc・椎茸の戻し汁 50cc
水溶き片栗粉 適量・濃口醤油 少々・ごま油 適量

1. 豚肉(一口大)、ピーマン(半月切り)、タケノコ(短冊切り)、ちくわ(半月切り)、キャベツ(短冊切り)、にんじん(千切り)、もやし(ざく切り)、ショウガ(みじん切り)、干椎茸(水戻ししてみじん切り)、ネギ(小口切り)にする。
2. 鍋にごま油を熱し、ショウガとネギをこがさないように炒め、香りが出たら豚肉を炒める。
3. 豚肉に火が通ったらピーマンとキャ

- ベツ以外の野菜を入れさらに水を入れて煮る。
4. 野菜が煮えてきたらコンソメ、濃口醤油で味付けし、水溶き片栗粉でとろみをつける。
5. 最後にキャベツとピーマンを入れて余熱で火を通す。
6. 中華麺はごま油を少量かけほぐしフライパンで軽く焼きあんをかけ完成！

《大阪聖和保育園》 長瀬 光子



大地協には職員厚生部があり、施設間の職員交流を行っています。大地協の加盟施設には子どもからお年寄りまで様々な世代を対象とした施設があり、市内の広い範囲に亘っているため、定期的に職員が集まって顔を合わせる機会を大切にしています。

昨年の夏は大阪では地震や台風などの大きな自然災害に見舞われ、職員交流の会ができませんでした。そこで「今年はぜひ、夏に交流会をしましょう。」ということになり7月4日、育徳園保育所にて「夏

を迎える会」を行いました。

当日は大地協のキャンプ地である「琵琶湖セツルの家」の開設準備があり、作業後に多くの職員が集ま

「それぞれの施設や地域の情報交換」また、「セツルの家の開設作業の報告」などの話題で大盛り上がりでした。会の最後に自己紹介をして、

初めて出会う職員とも互いに「大地協で繋がる」ことができました。そして夏の終わり8月30日には特別養護老人ホーム いくとくに「夏を惜しむ会」を行いました。会場をご提供くださいました皆さん、準備やカンパなどで協力していただいた各施設の職員の皆さん、ありがとうございました

《愛染橋保育園》 嶋津 哲夫

『夏を迎える会』 & 『夏を終える会』開催!!

つてく
れました。会場の育徳園保育所の2階のテラスには食べ物や飲み物がたくさん並び、即席の“ビアガーデン”ができました。参加者が加わる毎に「カンパ〜イ！」の声が響き、職員間の会話も弾んでいました。

特別養護老人ホーム ひまわりの郷

平成14年4月、特別養護老人ホームひまわりの郷は開設してから、16年が過ぎました。16年間の中で、少子高齢化社会、地域や家族の繋がりが、変化してきているように思います。

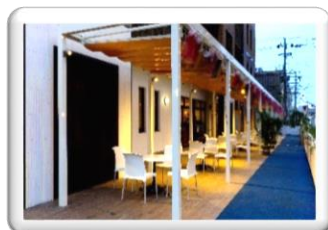
平成31年4月29日、私たちひまわりの郷は、関わり合う人が、その人らしい生活ができるような社会の中で役に立ち、高齢者、子ども、地域の皆様との機会を多く持ち、「ふれあい・交流」の拠点「カフェテリアひまわり」を開店しました。

カフェテリアひまわりの開店に伴い、1階集会室と南側のテラスを、高齢者、子ども、障がい者、そしてマンション建設による新住民の皆様、多様な人々が、木陰のテラスに腰掛け、コーヒーや軽食を楽しみ、語り合う「憩える場所」として生まれ変わりました。

また、施設の設備も開設当時と比べ、大きく変わりました。施設での洗濯を廃止し、委託業務としました。それに伴い、洗濯室を改修し、タオル倉庫を設けました。また、看取り介護に関しては、ご家族の休憩室を設けました。また、浴室に関しては、大浴場をモルタルで埋めて個浴浴槽を中心として、浴室を設けました。

この度の改修の目的は、入居者様を第一に考え、地域の皆様の入居を受け入れ、0歳児から百歳まで、地域皆様との世代間の交流、又、地域密着のひまわりの郷に生まれ変わるためです。現在の特別養護老人ホームひまわりの郷は、介護の相談、入所の相談、将来の介護職への啓蒙に、繋がっていきえるようになりました。

《特別養護老人ホームひまわりの郷》 中田 はずき



together